

優秀賞

誰もが幸せな生活を送れる未来

和歌山県立向陽中学校 二年

西岡 遼真

馴染みのない文化、初めて見る未来の技術、僕は大阪・関西万博でたくさんのこと学びました。世界の海洋問題の現状や、それぞれの国を紹介するパビリオンもありましたが、その中でも僕が興味を持ったのは未来の乗り物についてです。会場内にはさまざまな乗り物があり、実際に見ることができました。この体験から和歌山の未来社会について考えました。

和歌山県は山地が多く人口の減少や少子高齢化が課題になっています。大阪・関西万博では都市部の渋滞緩和や山間部の移動に役立つ空飛ぶクルマが展示されていました。僕が予想していたのは軽自動車くらいの大きさでしたが、実際に見てみると思っていたよりも大きく、調べると十一メートルほどあると書いてあってとても驚きました。しかしこの空飛ぶクルマを使うことで和歌山県の山間部の移動が今までより楽になると思いました。例えはそこで生活をしている人は今まで長い時間をかけていた平野部との移動が便利になり、観光目的で和歌山に来た人も移動の時間短縮に加え、上空からの景色を楽しむことができます。次に自動運転バスです。万博では会場を一周するEVのバスがあり、運転手が運転するバスと運転手はいるが自動で走るバスがあります。人口が減り、高齢化が進んでいる和歌山県はバス運転手不足になつていて、一方、まだまだ学生などの自家用車を持たない人にとって、バスは生活する上でなくてはならないものです。そこで万博のようにその地域を回る自動運転のバスがあれば、運転手不足の問題は解決できると思います。和歌山市では自動運転バスの実証実験が行われていましたが、まだ実用化はされていません。万博をきっかけに和歌山市以外の、今、バスが走っていない市町村にも、自動運転バスが走るよう

になつてほしいです。

大阪・関西万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」です。和歌山県には山に生えている木や植物、山に住む動物、川で泳ぐ魚などさまざまなのちが生きています。空飛ぶクルマを導入すると、たくさんの観光地や上空から見える自然など和歌山県にある魅力を最大限発信することができ、そこに住む人たちの移動や物資の供給も便利になります。そして自動運転バスでは、平野部のバス運転手不足をカバーでき、今までよりバスが普及すると思います。和歌山の山で生きる動物や植物、和歌山に住む人や和歌山に来てくれる観光客の人など全ての人々が幸せな生活を送ることができる未来になつてほしいです。